



## 「里山基本計画」の策定に向けた

# 里山活動を考えるワークショップ ニュース



みなさんこんにちは！

長久手市では、市内の里山を保全・利活用するため、平成27年度に「長久手市里山プラン」を策定し、様々な取組みを行っています。

今年度は、このプランに基づく「里山基本計画」の策定に向け、市民のみなさんと一緒に行う里山活動の内容や、里山活動の拠点となる施設のあり方について考えるためのワークショップを行っています。

初回となる第1回ワークショップでは「長久手の里山の状況を学ぼう！」と、9月20日（木曜日）に平成こども塾丸太の家で開催し、地元区長さん、様々な里山活動に取り組んでいる団体の方々、市の職員を含め、35名の方に参加いただきました。



## 第1回ワークショップ「長久手の里山の状況を学ぼう」を開催！

■日 時：平成30年9月20日（木曜日）19：00～21：00

■会 場：平成こども塾 丸太の家

■参加者：35名

■本日のプログラム：

- 19:00 ① 開会・趣旨説明
  - ・ワークショップ開催の趣旨と本日のプログラムの説明
- 19:10 ② 里山プラン、平成こども塾マスタープランの紹介
  - ・平成27年度に策定した「長久手市里山プラン」、「長久手市平成こども塾マスタープラン」の紹介
- 19:20 ③ 自己紹介
- 19:35 ④ 軽食の準備、席の移動
  - ・里山の味覚を味わいながら・・・
- 19:45 ⑤ 里山活動の紹介
  - ・活動を実践している「平成こども塾サポート隊」、「長久手みなみ里山クラブ」、「ながくて里山クラブ」、「長久手湿地保全の会」、から活動紹介
- 20:10 ⑥ こんな里山にしたい！【意見交換】
  - ・「こんな里山にしていきたい」、そのために「こんな活動をしていきたい」など、参加者それぞれの里山への想いを発言！
- 20:50 ⑦ まとめ
  - ・本日のまとめ/次回の案内



## ① 開会・趣旨説明

最初に、長久手市建設部 角谷部長が、ワークショップ開催のあいさつを行いました。

長久手市に残る貴重な里山への市民の理解、関心を高めつつ、里山を保全・活用するための方策、持続可能な里山活動ができる人材、体制づくり、里山活動の拠点となる施設のあり方などをみなさんと一緒に考えていくためにワークショップを行うことなどの趣旨説明を行いました。



## ② 里山プラン、平成こども塾マスタープランの紹介

みどりの推進課と平成こども塾の職員が、里山基本計画を考える上で前提となる、平成27年度に策定した「長久手市里山プラン」と「長久手市平成こども塾マスタープラン」の概要の説明を行いました。

## ③ 自己紹介

第1回目は、参加者同士で知らない方も多いことから、参加者同士の交流、関係性を高めるために、本日出席している地元区長さん、様々な里山活動に取り組んでいる団体の方々、市の職員など総勢35名が車座になって一人ずつ、「お名前、所属、里山の魅力」などを語っていただく自己紹介を行いました。

一人30秒と短い時間での自己紹介でしたが、参加者それぞれの里山への想いなどが少しだけ共有できました。



## ④ 軽食の準備、席の移動／⑤里山活動の紹介

今回は里山の恵みを味わってもらおうと、平成こども塾サポート隊の協力を得て、里山で採れた食材を使った「栗おこわ」や「お味噌汁」が振る舞われました。

参加者の方々は秋の里山の味覚を味わいながら、市内で里山保全などの活動に取り組む「平成こども塾サポート隊」、「長久手みなみ里山クラブ」、「ながくて里山クラブ」、「長久手湿地保全の会」の4団体から、団体設立の経緯や活動内容などを話していただきました。



## ⑥ こんな里山にしていきたい！【意見交換】

4つのグループに分かれ、テーブルファシリテーターの進行で、「①こんな里山にしていきたい！」と、長久手の里山が目指す姿や目標像を考えていただきながら、「②それを実現するための活動・取組みのアイデア」を出していただくワークを行いました。

「子ども、高齢者、障がい者など誰もが関わる楽しい里山を目指そう！」、「きれいな竹林にしていこう！」、「里山の価値を高めよう！」、「竹を使って拠点を作っていこう！」、「里山大学を作ろう」など、様々なアイデアが出されました。

長久手の里山への想い～こんな里山にしたい！～

① こんな里山にしていきたい！  
～長久手の里山がめざす姿（目標像）～

↓

② それを実現するための活動・取組みのアイデア  
～「作業内容」、「人材需要」、「客先活動」など～

お名前・所属



## ⑦ まとめ

各テーブルファシリテーターより、グループで話し合ったあった内容を共有する発表を行いました。



なお、グループ内で出された意見は、次のようになっています。

### 【1グループ】

①こんな里山にしていきたい！	②それを実現するための活動・取組みのアイデア
子どもが興味を湧く空間、心が安らぐ空間にする。Ex.キャンプができる場	里山が持っている資源の調査と、その資源を活用した取組みの開発
貴重な動植物を保全していきたい	獣害対策。水田維持のための方策
東山地区は貴重植物、昆虫が残っています。里山風景を残していきたい	一般の方が里山を散策できるように散策路をつくっていただけると思っています
障がい、高齢者役割を持ち、地域と交流できる場所。子どもも！	里山プランをまずは知ってもらう。理解者を増やす！
使われる、利用される金山としての里山	大人も子どももバーチャルでない実感のある生活へ。お金で買えない本物の衣食住を里山からつくりだす。竹の子、菌、米、まき（ストーブ）、食器、絹、野菜、果物
竹やぶ→竹林へ。農作放置→若い人に農業の機会を！	何れも市役所の主導で…
子どもが遊ぶ里山	親、先生の自然への関わり。ピオトープカルテの作成
里山の管理は地域住民、ボラで行う	管理の作業等をスマイルポイントで評価する

### 【2グループ】

①こんな里山にしていきたい！	②それを実現するための活動・取組みのアイデア
竹林整備をして散策路をつくる	市民全体に呼びかけ、半日でも良いから竹林整備日をつくる
幅広い人が楽しめる里山	様々な体験活動、見学会の実施（里山の魅力を知ってもらうため）
のんびりくつろげる、散歩ができる	草刈りや整備を皆で行う、部活とか授業で子どもたちが行う
子どもたちが自然と触れあえる年配の方も安心して歩ける里山	山道の整備、広場の整備
香流川の水をきれいにしたい川もきれいにしたい	上流施設の水処理。各所の井戸を掘り浄化する
子どもが安心して楽しめる里山	竹やぶ、雑草の整備
気軽に行って楽しめる	プレーリーダーならぬ里山リーダーがいたらいいな。遊び方、子どもの面倒

### 【3グループ】

①こんな里山にしていきたい！	②それを実現するための活動・取組みのアイデア
人も生物もみんなおいしい里山	里山ビットコイン
みんなが集える里山（リピーター頼みでなく幅広く。老若男女）プログラムを幅広く	啓発PRが少なすぎると思う（広報だけ？）（広く周知させたい）
1年を通じて遊べる場所	炭作り、キノコ栽培、竹の子採り、柿他の実の収穫、赤ねずみの穴探し、ヒメボタルの保全・観察会
まずそこに暮らす人がこち良く、お客様でなく、自らが楽しく緑を守る、育てる	人と交わる、発信できる芸術家 野菜は近所からおすそ分け。助けなくなっちゃう
御嶽山の所は守りたい！歩いて健康になれる里山。竹やぶから竹林に！	竹を使った家を建てる。床、壁
子どもも大人も自然に親しめる、自然を学べる場所	散策路づくり、湿地の木道づくり、銘木板、道標の整備を楽しむイベント
里山の生物の保全（環境維持） 人と人を結びつける里山	親子で行う里山での田んぼでの稲刈り体験～餅つきの一連作業。間伐作業。遊歩道の散歩、小学校の遠足
子どもの思い出づくりのできる里山	人材育成→講習会への参加、里山づくりを全員で実施
子どもから高齢者、障がいを持つ方、いろいろな人たちが繋がり交流できる場 障がいを持つ方の交流、就労の場が増えたらいいなあと。緑を守る、管理できる仕組み	誰でも参加しやすい広報活動
新庁舎を福井茨ヶ廻間地区へ移転 防災機能を持つ里山整備	里山大学LLP（有限責任事業組合）を設置

### 【4グループ】

①こんな里山にしていきたい！	②それを実現するための活動・取組みのアイデア
少しでも良い状態の里山を次世代に残したい。市民に気軽に来て、知ってもらいたい	会として協力できることはやって行く。来てもらうための交通手段（まずは観察会等）
プレーパークで子どもがいきいきと活動する。	ツリークライミング体験。カブトムシ・クワガタ見学会。いろいろな竹細工づくり。テント泊体験
子ども、大人一体となって過ごせる里山	遊べる工夫、ぼーっとできるような場所
生き物との共生。みんなが楽しめる場所。気軽に来られるような	作業内容→下刈り、枝拾い。人材育成→若い人。啓発活動→パンフの作成
今を伝える	家族から
平成こども塾の周りで農業をする人が年々、減少していて、今の農業を維持するのもむずかしい。この問題をどう解決していくか	平成こども塾でこどもファームや学校連携を担当しているがいろいろ問題がある。私個人の事として学校連携を担当しているが、後を任せる人がほしい
四季の自然美の創生を保全。子どもから老人まで楽しめる里山	人材確保と育成システムの構築
いろいろな価値観を持つ人が満足できる里山	人材育成は友だちと友だちを繋ぐネットワークづくり

## 次回の案内

- ◆次回は、現地見学会として、10月16日（火曜日）10時に平成こども塾に集合し、里山保全アドバイザーの眞弓浩二先生と木望の森周辺の散策などを行います。
- ◆第2回ワークショップは、10月25日（木曜日）19時から、里山を保全・活用するための取組みなどを考えます！

### 【お問い合わせ先】

長久手市みどりの推進課  
電話：0561-56-0552





## 里山基本計画の策定に向けた

# 里山活動を考えるワークショップ ニュース



みなさんこんにちは！

夏の猛暑も一段落して、ようやく秋が深まってきました。

9月20日に第1回を開催した「里山活動を考えるワークショップ」。

今回は、長久手の里山を見る「現地見学会」を開催しました。

平日の午前中にも関わらず、多くの方に参加していただき、長久手の里山に実際に関わっている方の案内により、現在の里山の状況を見学しました。



## 現地見学会「長久手の里山の状況を知ろう！」を開催

■日時：平成30年10月16日（火曜日）10時から12時

■場所：平成こども塾丸太の家 ⇒ 木望の森 ⇒ 周辺の里山 ⇒ 平成こども塾丸太の家

■参加者：21名

■プログラム：

### ① 開会・趣旨説明

・現地見学会のプログラムの説明

### ② 里山ミニ講座

・丸太の家で、里山アドバイザーの眞弓浩二先生による里山の基本的な知識を学ぶミニ講座

### ③ 「木望の森」の見学

・「ながくて里山クラブ」が保全・整備活動を行っている森を見学

### ④ 周辺の里山の見学

・丸太の家周辺の里山を歩きながら、谷津田などを見学

### ⑤ 湿地の見学

・「長久手湿地保全の会」の案内により、湿地の生態を見学

### ⑥ 意見交換

・長久手の里山の現地を見学した感想などについて意見交換



## ① 開会・趣旨説明

みなさんには、平成こども塾に集合していただきました。

現地へ出かける前に、丸太の家で車座に座っていただき、長久手市みどりの推進課の職員から、「これから里山活動を考えていくにあたり、里山の状況をみなさんと共有したい」という現地見学会の主旨、プログラムを説明させていただきました。



## ② 里山ミニ講座

全国各地の里山保全活動に関わり、長久手の里山についても熟知している、里山保全アドバイザーの眞弓浩二先生に、里山の基本的な知識を教えてくださいました。

眞弓先生に教えていただいたことの一部を紹介します。

- 日本は森林大国である。長久手市でも35%が緑の空間である。
- 山林だけではなく、水田、畑、湿地なども含めたワンセットが里山である。人間も里山のひとつの要素である。
- 里山は人が管理することにより保全されていく。里山は住む人々のたたずまいを映す鏡である。
- 生物多様性にとって里山は大切な空間である。里山を持続的に守り、活用することが大切である。



## ③ 「木望の森」の見学

平成こども塾丸太の家の隣は、かつては荒れ果てた山林でしたが、「ながくて里山クラブ」のみなさんによる継続的な保全・管理活動により、「木望の森」の雑木林としてよみがえりつつあります。当日は「ながくて里山クラブ」のみなさんに日頃の活動について紹介していただきながら、雑木林を見学しました。

雑木林の生態を考えて残す植物と切る植物を細かく定めながら、丁寧な活動をされていることに感心させられました。



## ④ 周辺の里山の見学

中部警察犬訓練所から北東方向の谷筋を歩きながら、谷津田や周囲の雑木林などを見学しました。稲刈が終わりはず掛けのある水田など、長久手の美しい里山風景を体感できた一方で、イノシシが出没した状況があちらこちらで見られ、獣害の深刻さも感じることができました。





## ⑤ 湿地の見学

長久手の里山は水が豊富にあり、山の際には湿地が広がっています。雑草の繁茂や外来種の侵入などにより湿地は少なくなる傾向にある中で、「長久手湿地保全の会」のみなさんが日頃から湿地の管理や保全の活動を行っています。当日は「長久手湿地保全の会」のみなさんの案内で、里山の湿地の状況や、湿地に生息している絶滅危惧種である「シラタマホシクサ」について教えていただきながら、見学をしました。

その中で「シラタマホシクサ」は漢字では『白玉星草』と書き、星が散りばめられたように花が咲くことが由来ということも教えていただきました。



## ⑥ 意見交換

参加者には、里山をじっくり歩くことが初めての方も多く、里山風景の美しさ、イノシシの被害の深刻さなど、様々な意見が述べられました。



### <見学会後のアンケートの主な意見>

○それぞれの活動を尊重しながら、連携できるところは協力していきたい。地元との話し合いをしっかりとっていくことが大切。

○シラタマホシクサは感動ものでした。長久手にもまだ残っていたとは。イノシシの被害にはビックリでした。西に住んでいるので、今まで実感がなかった。

○とても感動しました。もっと子どもたちや自分たち親世代もこういった活動に参加して、長久手市を知ることが必要であり大切だと思いました。継続して参加していきたいです。

○一人では見ることができない場所を色々教えていただき、長久手の里山の新たな魅力を知ることができました。農を守る環境づくりを実行に移し、トライ&エラーを重ねて進めてほしいです。

○ながくて里山クラブの皆様のご苦労には頭が下がります。竹やぶを雑木森としてスタートできる状況にしたことは、今後のサンプルになります。イノシシ対策については検討をお願いします。シラタマホシクサには驚きました。

○ながくて里山クラブ3年の積み上げを見て、その初期の格別なご苦労を思います。勢いをつけて継続に至るためにも、初期に人・モノ・カネを集中して形をつくる（目に浮かぶように）ことが必要だと思います。

○とてもいい体験をさせていただきました。長久手の歴史が理解できたこと、貴重な野花が見られたこと、是非、次世代の子どもたちに伝えていきたいと思いました。イノシシ被害については、テレビで見るとは違ってはじめて見ました。

○初めて里山に入りましたが、緑に囲まれ、大変心地良い場所でした。緑をただ残せば良いのではなく、きちんと管理し整備した状態で残すことが大切だと思いました。必要な木を選別するためには専門家の知識が必要です。里山で活躍されている方と協力しながら、教えてもらいながら進めていけたらと思います。猪の問題…深刻さを改めて知りました。

○市内にこのような場所があったのは知らなかった。勉強になりました。保全をしている土地に関する問題点について考えるべき。

○「長久手の魅力は?」「みどり!」と簡単に答えるのが恥ずかしくなりました。イノシシ被害、竹やぶ等々…。「誰かが守ってくれているみどり」ではなく、本当に魅力だと思うなら、自分が少しでも関心を持つ、少しでも保全に関わる、自分事のみどりにしていく努力を行政も市民も重ねることが必要で、そのためには、もっと情報発信が必要だと思いました。竹やぶの後の竹をどうするか。使い道がないというから。竹チップにして散策路に敷く?

○イノシシとの関連と対策は考え方、柵をすることによることへの考え方を聞きたい。

○「電気柵」電池でも猪を防ぐ電気柵が有効であることを学んだ。太陽光パネルでも継続使用が可能とのこと。電気を引けない山里でもできることが学べて良かった。

○普段なかなか立ち入ることができない場所を見学することができて貴重な体験でした。谷津田や湿地のあたりは進入路も狭く、整備の活動を行うのもむずかしそうに感じました。意見交換では話したい人が多いのもう少し時間を長く設けた方が良いのではないのでしょうか。（もしくは話がそれていかないよう、ある程度課題を固める等）

○ながくて里山クラブさんが活動されているところや湿地をはじめを見せていただき、整備、保全にどれほどの手がかかっているかを知ることができました。

○現地を見学することができ、今後ワークショップに参加する上で、大変参考になりました。

○里山、里地、人はワンセットであることを確認。行ってみたい里山、里地から楽しむ、暮らす、活動する里山、里地へバージョンアップしてゆくことが大事。そのため「ネタ」をいろいろ考えましょう。生物の多様性と共に活動の多様性が共栄する地になるといいです。

### <眞弓浩二先生からのコメント>

長久手の皆さんの熱心な活動や思いにふれ、心強く感じました。やりたい人が集まってやりたい時にやりたいたくだけ里山活動ができる長久手の街がつくれていけば素晴らしい。行政と市民の立場とやるべきことは自ずと異なるところから考えたい。

## 次回のご案内

◆第2回ワークショップは、10月25日（木曜日）19時より、平成こども塾丸太の家で、子ども、親子、大人、障がい者などの様々な人にとっての里山での活動などについて考えます!

**【お問合わせ先】**  
長久手市みどりの推進課  
電話：0561-56-0552





里山基本計画の策定に向けた

# 里山活動を考えるワークショップ ニュース



みなさんこんにちは！ 朝と夕方はすっかり寒くなり秋の訪れを実感する季節となってまいりました。9月20日に第1回、10月16日に里山見学会を開催した「里山活動を考えるワークショップ」。10月25日に第2回ワークショップを開催しました。今回は34人のみなさんに参加していただき、「みんなが楽しめる里山にするための活動を考えよう！」というテーマで話し合いをしていただきました。

## 第2回ワークショップ「みんなが楽しめる里山にするための活動を考えよう！」

- 日時：平成30年10月25日（木曜日）午後7時から9時
- 場所：平成こども塾 丸太の家
- 参加者：34名
- プログラム：



### (1)開会

- ・今回のプログラムの説明

### (2)前回までの振り返り

- ・平成27年度開催の里山プランのワークショップの成果から第1回の意見をふりかえりながら、今回のワークショップで取組アイデアを深める4つのテーマを紹介しました。

- ①里山暮らし・思い出づくり体験の活動
- ②遊びや緑とのふれあいの活動
- ③里山風景づくりの活動
- ④農福連携の活動

### (3)活動アイデアの検討（グループワーク その1）

- ・アイデアをカードに書きながら議論を行い、各グループのテーマごとに、核となる活動を整理していきました。

### (4)アイデアの収穫・共有（ワールドカフェ）

- ・他のグループを巡回して、話し合いの経過を聞きながら、他のテーマに対しても提案をしていただきました。

### (5)活動アイデアの検討（グループワーク その2）

- ・他のテーマでの意見交換を参考にしながら、元のグループでの活動アイデアを再整理していただきました。

### (6)発表

- ・グループごとに話し合いの内容を発表していただき、核となる活動を共有しました。

### (7)まとめ

- ・全体でのまとめを行い、次回以降の予定をご案内しました。

## 各グループの話し合いの成果

### ①里山暮らし・思い出づくり体験の活動

このグループは、「**散策路づくり**」が活動の大きなテーマにあげられました。

東山地区の里山を起点にして、各地区をつなぐ「長久手自然歩道」を市民参加で作っていこう！という取組が提案されました。



### ②遊びやみどりとのふれあいの活動

このグループでは「子ども」「親子」の里山活動が話し合われました。取組の柱として、「**親子・子どもによる里山づくり**」「**昔の暮らしを里山で伝える**」「**里山で思いっきり遊ぶ**」に整理され、これら3つの取組で「里山プレーパーク」を実現したいということが提案されました。





### ③里山風景づくりの活動

このグループでは、里山風景づくり活動のためには、地主さんなどの協力を得ながら、「**活動フィールドの確保**」「**拠点施設の必要性**」について中心に話し合われました。その中では、それぞれにおける行政の役割、市民の役割などが検討されました。



### ④農福連携の活動

このグループでは、「**福祉と連携した活動が里山でできるか？**」について検討されました。他にはあまり事例のない取組なので、里山で何ができるか？ 悩みながらの話し合いになりましたが、「**まずはみんなで行って試してみることから始めよう！**」ということが提案されました。



### <ワークショップ後のアンケートの主な意見>

- 具体的なイメージがわく話し合いで、とても楽しかった。
- 4つのテーマの中で皆さんの個性あるディスカッションがおもしろく、そして深い意味があったりで、とても勉強になった。
- 人が集まれば建設的な意見が出て、アイデアが出てくる。そんな気持ちになった。
- より具体的になりつつある気がした。
- 一歩踏み込んだ話ができてよかった。活動フィールドの問題を早く解決して欲しい。
- フィールドの確保について、先が見えてきた思いがした。良い方向に向かいたいと思う。
- 活動フィールドへの協力は区でも致します。
- 市役所は里山活動のフィールドを確保する。里山活動を市民へPRする。
- より具体的に話が進んで良かった。里山プレーパークに対するいろいろな意見が聞けてよかった。
- 稲作を中心に里山を利用する場として活用していくスタイルをつくると思う。稲作についての知識はあるが、里山整備の知識はない。勉強しながら進めていけるといい。次回は具体的に活動の話がしたい。
- 里山活用のイメージだけでも各人各様の思いがあり、構想をまとめることは大変だと感じた。
- とても熱い意見交換ができました。それぞれの思う「里山」が少しずつ違っており、新しい視点で里山を考える機会が頂けた。
- 東山で活動する方の問題点、苦労していることが理解できた。
- 「農福連携」という言葉をまず知ってもらうことが大切だと思う。そして、福祉で何ができるかを協議していきたい。今回は里山で障がいのある方が活躍できそうな様々な意見が聞けて勉強になった。
- 「農福連携」を長久手市がどうとらえるか…。どのような形が長久手市（里山計画）にとっての「農福連携」なのか…。もう少し時間をかけての議論が必要と感じた。
- 他の地域の事例を紹介して欲しい。平成こども塾を夜に使うのはよい。
- 地域の思いと活動する人の思いをうまくつないでもらいたい。まずは、市民の方に来てもらって、知ってもらうことが大切。
- 平成こども塾周辺の里山とそれ以外の里山、ケースごとに考えなければならぬことが難しいと思った。
- 長久手の里山景観の抽出を期待する。
- 予算（資金）の話もして欲しい。

### 次回のご案内

- ◆11月8日（木曜日）午後7時から、平成こども塾丸太の家にて、**里山アドバイザーの眞弓浩二先生の講演会**
- ◆11月22日（木曜日）午後7時から、平成こども塾丸太の家にて、**第3回ワークショップ**  
みなさん、ご参加をおねがいします！

【お問い合わせ先】 長久手市みどりの推進課  
電話：0561-56-0552



みなさん こんにちは！

秋も深まり、所々で紅葉が見ごろをむかえ、朝晩は日に日に寒くなり、段々と冬が近づいてきました。

11月8日（木曜日）には長年、長久手市の里山活動などにも関わって下さっている里山アドバイザーの眞弓浩二先生を講師にお招きし、『里山の保全・活用のための活動を考える』をテーマにご講演していただきました。



### 講演会『里山の保全・活用のための活動を考える』を開催

■日 時：平成30年11月8日（木曜日）19時から21時

■場 所：平成こども塾 丸太の家

■参加者：36名

■プログラム：

① 開会

・講演会プログラムの説明と講師のプロフィールの紹介

② 講演会

・里山アドバイザー 眞弓浩二先生による「里山の保全・活用のための活動を考える」講演

③ 意見交換

・眞弓先生への質問などの意見交換

### ① 開会・趣旨説明

参加者のみなさんに平成こども塾丸太の家に集まっていただき、長久手市みどりの推進課の職員から、里山基本計画の策定に向けた講演会

『里山の保全・活用のための活動を考える』の開催の趣旨、プログラム、さらに本日の講師の眞弓先生のプロフィールを紹介させていただきました。



### ② 講演会

全国各地の里山保全活動を実践的に関わり、長久手市の里山についても熟知している、里山アドバイザーの眞弓浩二先生を講師に、「里山の保全・活用のための活動を考える」をテーマにご講演いただきました。

講演では、現代における里山の役割、放置され荒廃する里山林の状況、名古屋市における森づくり（里山保全）活動の事例などを紹介いただきました。また、最後には長久手市における里山の保安全管理の仕組みについてご提言いただきました。



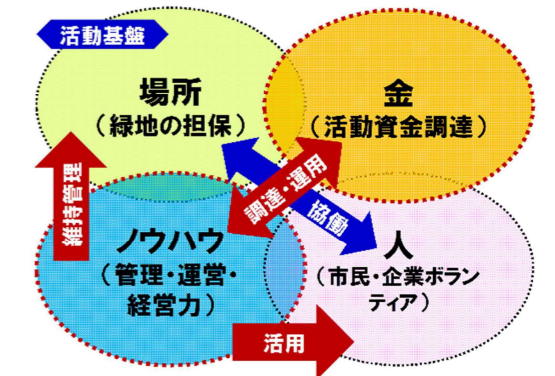
### 里山の保全・活用のための活動を考える！

1. 里山について
2. 現代の里山の役割
  - (1) 自然体感・体験・学習・レクリエーション機能
  - (2) ヒートアイランド抑止機能
  - (3) 生物多様性保全機能
3. 放置され荒廃する里山林
  - 植生遷移の進行
  - 外来生物の侵入・拡大
4. 事例紹介：なごやの森づくり（里山保全）活動
5. 長久手市の里山の保安全管理のしくみを考える
  - (1) 長久手市里山プランから
  - (2) 里山の保安全管理、これまでとこれから
  - (3) 持続可能な活動資金財源の例
  - (4) 持続可能な里山活動のための里山マネージメントの必要性
6. 里山保全活動を支援推進する管理・運営の民営化事例  
森の合言葉（行ってみようよ！森の学校より）

### 長久手市における里山の保安全管理のしくみ（要約）

- 長久手市の里山を市民共有の環境財産にしていくことが必要です。
- 里山林の保全には、これまでは活動基盤となる「場所」と活動を行う「人」だけでしたが、これからは活動資金となる「金」の調達と、人の活用、場所の維持管理など、管理・運営・経営する「ノウハウ」を持つマネジメント力が必要です。
- そのために、横浜市のみどり税のような形で里山を買い取る資金を集めたり、里山保安全管理活動をNPOや企業などの民間で専門的に運営・管理する組織づくりや専従スタッフの確保が必要不可欠です。

### 里山林の保安全管理のしくみ（これから）



### ③ 意見交換

講演後、参加者から様々な質問が眞弓先生へ投げかけられ、丁寧にご回答いただきました。

質問（一部抜粋）	回答
Q: 複数の里山地権者の合意形成はどのようにまとめるべき？	A: 市全域で行うのは難しいので、合意できそうな土地から進め、徐々に広げていくのが良い。
Q: 保全活動を長く続ける心得はありますか？	A: 気負わない、責任を背負わないこと。
Q: 里山の風景を守るためにはいくら予算が必要？	A: 無限。是非とも横浜市のようなみどり税を。
Q: 活動場所、資金、人、ノウハウをマネジメントするには誰が事務局を行うべきか？	A: 場の管理ノウハウを持つ造園屋さん、客を集めるイベント会社、経営・まちづくり・交渉などができるコンサルの組織化ができるとう良い。
Q: 里山のデザインで、まず一歩はどこまですべき？	A: 市民に良い里山を見せることができるようにする

### 次回のご案内

◆第3回ワークショップは、11月22日（木曜日）19時より、平成こども塾丸太の家で、前回検討した活動内容に基づきながら里山拠点施設に必要な機能などについて考えます！

【お問い合わせ先】  
長久手市みどりの推進課  
電話：0561-56-0552





## 里山基本計画の策定に向けた

# 里山活動を考えるワークショップ ニュース



みなさんこんにちは！ 早いもので今年も残りわずかとなってきました。さて、9月からスタートした「里山活動を考えるワークショップ」ですが、11月22日に第3回ワークショップを開催しました。今回は、第2回の「里山の保全・活用策を考えよう！」の成果を踏まえつつ、「里山活動拠点施設とそれを利用する活動について考えよう！」というテーマで話し合いをしていただきました。

## 第3回ワークショップ「里山活動拠点施設とそれを利用する活動について考えよう！」

- 日時：平成30年11月22日（木曜日）午後7時から9時
- 場所：平成こども塾 丸太の家
- 参加者：24名
- プログラム：



### (1)開会

- ・今回のプログラムの説明

### (2)前回の振り返りと今回検討する前提条件

- ・前回ワークショップの結果から、以下に記す4つの活動プロジェクトについて解説しました。あわせて、コンセプト案や活動拠点を考える対象地域案を説明しました。

- |              |                    |
|--------------|--------------------|
| ①里山散策路づくり    | ②里山暮らしを伝える・体験の場づくり |
| ③里山プレーパークづくり | ④里山風景づくり           |

### (3)活動拠点のアイデアの検討(グループワーク)

- ・4つの活動プロジェクトごとにグループに分かれ、プロジェクトを実施・展開していく上で、どこに、どのような環境を整えるべきか、活動拠点施設として必要な機能は何かを話し合いました。
- ・屋内の里山活動拠点施設（体験、学習、交流、休憩、トイレ、管理事務、情報提供、倉庫など）と屋外での活動・体験フィールド（谷津田（水田）、畑、湿地、ため池、里山林、竹林、小川・水路など）に分けながら、活動に必要な機能・施設は何かを考えました。

### (4)発表

- ・グループごとに話し合いの内容を発表していただきました。

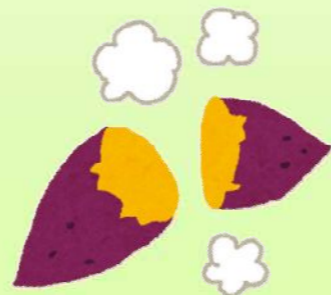
### (5)まとめ

- ・全体でのまとめを行い、次回以降のご案内をしました。

### ■おまけ

- ・寒い季節となってきましたので、参加者にはホカホカの焼き芋が振る舞われました。

（ご準備いただいた、平成こども塾サポート隊の皆さまありがとうございました。）

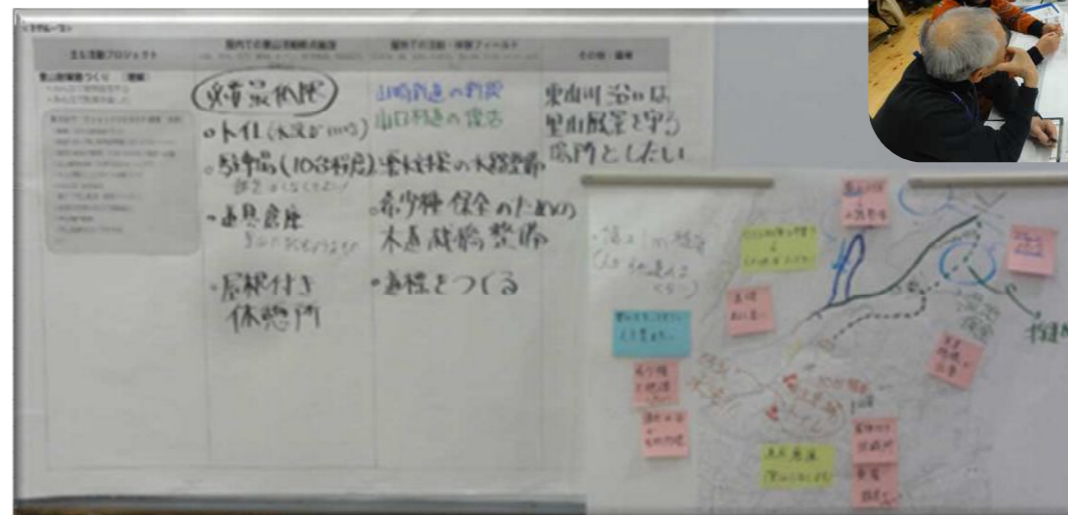


## 各グループの話し合いの成果

### ①里山散策路づくり

旧山口村道（公道）を中心にそこから尾根を歩いて下りてくる散策路をつくる、そして、将来的にはさらに旧山口村道を東に延伸していくことという考えに整理されました。ただし、亜炭鉱跡があるという話もあるので、その点に注意しつつ整備を進めるというものでした。

また、活動を行うためには、10台分くらいの**駐車場、トイレ、休憩用の四阿（あずまや）、活動する人達のための道具小屋などの整備が必要**になるという意見となりました。



### ②里山暮らしを伝える・体験の場づくり

昭和30年代の里山の暮らしを体験する場所にしていきたいと思いますを軸に話し合いをしました。

東山川を南から眺めたときの風景が美しいので、この谷津田（水田）を中心に田畑を保全し、あわせて眺望の先端となる尾根に**小さな農家風の小屋**（6帖2間と土間くらいの一軒家）をつくり、そこで、色々な体験を楽しめるようにするという意見に集約されました。

荷物を背負子で運ぶ、ゴカキ（枯れ草集め）をしてクドで湯を沸かしてお茶を入れるなど、**昭和30年代の体験を織り交ぜていく**といったアイデアが出されました。





### ③里山プレーパークづくり

プレーパークは、水田、湿地などの保全するところを明確にしなが、子どもが自然の中で自由に遊べる明るい場所に設置すること、自転車や歩いてきた子どもたちが容易にアクセスできること、また障がい者の利用などを考慮し、**木望の森の西側の場所が望ましい**という意見が出ました。

**拠点施設**については、受付機能、トイレ、シャワー、屋内の体験施設等が必要という意見が出ましたが、**便利過ぎる施設にはしない**、不便さも体験すべきとの意見もありました。

また、プレーパークは**自己責任で自由に遊ぶ場所**であることから、**専門知識や経験を有するフリースターを配置**すること、**行政ではなく市民団体が運営すべき**との意見も出されました。



#### プレーパークとは・・・

従来型の公園と違い、禁止事項をできるだけ少なくし、自分の責任で自由に遊ぶことを基本とした子どもの遊び場である。子どもの安全の確保のために、プレーリーダーと呼ばれる指導員を置くこともある。地域住民やボランティアで自主運営している場合も多い。

### ④里山風景づくり

屋内の拠点施設としては、**道具置き場**、教室の様な**学びのスペース**、人と人が**交流できるスペース**、みんなの**活動を展示・紹介できるスペース**が必要という意見が出されました。屋内外共通の施設としては、作業スペースが必要で、できれば**交流機能を兼ねた作業スペース**になることが望ましいという意見でした。

屋外については、貴重な生物がたくさんあるので**PR用の立て札**や、夜間にしか活動しない生物もいるので宿泊のできる**キャンプスペース**があると良いといった意見でした。

このほかには、駐車場・駐輪場、屋外でのかまどのほか、若い世代を呼び込むための**“里山を使ったアート演出”**といった意見も寄せられました。



### <ワークショップ後のアンケートの主な意見>

- 農作業が基本だと考える。里山は利用する使う場である。そのための整備を着実にすすめる。その先に湿地の保全、プレーパーク、体験の場は生まれてくるはず。そのための拠点施設とすれば、おのずと作業のできる場になると思います。
- プレーパークに対する認識に参加グループ内で温度差があったが、今回のWSを通じてだいぶ共通理解が得られたと思う。
- 地元の方の想いが聞いて良かった。田んぼのある風景を守りたいという思いは一緒だった。
- 市の予算作成が必要です（里山づくりの）。
- 基本計画作成ができたよ！
- 活用のアイデアを出し合うことで「里山活動」の具体的なイメージができて来ました。今回もありがとうございました。焼き芋がとてもおいしかったです。ありがとうございました。ごちそうさまでした。
- 川遊びが自然にできる場所をつくってほしい。長久手らしいプレーパークをつくった方がよい！里山整備にはお金と知恵を出して活動は自由にできるようにしてほしい！
- 地権者の方、利用する対象者の方も参加を促すすめ方が必要と。
- プレーパーク構想が具体的になってきてワクワクしてきました。
- 保全すべきところは守りつつ、多様な方が里山に親しむことができるような施設のアイデアがたくさん出ており、それらがうまく融合して実現可能な計画になると良いなと思います。
- 各人の持っている里山イメージが少しずつ具体性をおびて来るように感じた。
- 4グループそれぞれすばらしい意見です。
- 場所が決まらないのに話し合うのはどうかと言われて、私も困ったのですが、夢は抱けました。
- すすめていくのに、時間がかかりすぎる。すすむキッカづくり(kick-off)が何かないかな。
- グループ内での討議がいろいろできて良かった。
- 作業活動の必要施設はほぼ、各グループとも重複すると思いましたが、理想的なものを1つお願いしたいと思います。他に民間側ではできないものは補充できるように期待します。合宿里山研究室等、共用度の大きいものからの整備、計画立案しておいてほしい。
- 活動拠点の存在が様々な活動の可能性を広げることにつながると今回のWSで見えてきました。可能性が広がることは楽しいです。
- 拠点施設について活動しやすくなるとうれしい。また、活動に参加する人を育てるために活用できる場となることを希望します。
- 毎回、色々な考え方や意見が出ますが、担い手である作業のできる人が少ないので、実現するには相当、時間、年月がかかりそう！また、実現させるための市の役割を明確にすべきだと感じます。

### 次回のご案内



◆12月20日(木曜日)午後7時から、平成こども塾丸太の家にて、**第4回ワークショップ**を開催します。拠点施設の整備、施設の管理・運営などについて話し合いたいと思います。みなさんのご参加をおねがいします！

【お問い合わせ先】 長久手市みどりの推進課  
電話：0561-56-0552





里山基本計画の策定に向けた

# 里山活動を考えるワークショップ ニュース



明けましておめでとうございます！昨年9月からスタートした「里山活動を考えるワークショップ」ですが、1月末の最終回を残すのみとなりました。

さて、第4回ワークショップを年末12月20日（木曜日）に開催しました。

今回は、前回話し合った「里山散策路づくり」、「里山の暮らしを伝える・体験の場づくり」、「里山プレーパークづくり」、「里山風景づくり」の活動を展開するために必要な「場所」、「金」、「人」、「ノウハウ」を確保するための長久手版の仕組みについて考えていただきました。

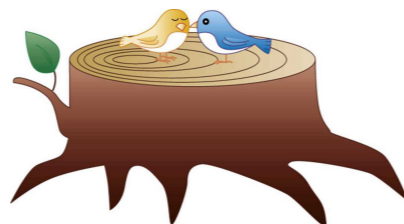
## 第4回ワークショップ「里山保全活動に向けた仕組みについて考えよう！」

■日時：平成30年12月20日（木曜日）午後7時から9時まで

■場所：平成こども塾 丸太の家

■参加者：30名

■プログラム：



### (1)開会

- ・今回のプログラムの説明

### (2)里山保全活動の紹介

- ・「合同会社つむぎて」の加藤康次さんより、「自然循環から暮らしを学ぶ」をテーマに杣ノ洞地区などで実践している活動などについて紹介いただきました。

### (3)前回の振り返り

- ・前回のワークショップで各グループから提案された里山活動拠点施設のアイデアを統合した最低限必要な施設の機能などを説明しました。

### (4)里山保全活動に向けた仕組みの検討(グループワーク)

- ・「里山散策路づくり」、「里山の暮らしを伝える・体験の場づくり」、「里山プレーパークづくり」、「里山風景づくり」4つの活動プロジェクトごとのグループに分かれ、各プロジェクトの活動を展開していく上で必要な「場所」、「金（活動資金）」、「人（市民・企業ボランティア）」、「ノウハウ（管理・運営・経営力）」を確保するための長久手版の仕組みを考えました。

### (5)発表

- ・グループごとに話し合いの内容を発表していただきました。

### (6)まとめ

- ・全体でのまとめを行い、次回以降のご案内をしました。

## 里山保全活動の紹介

4年前から4人のメンバーで自然循環を活かした栽培などに取り組む「合同会社つむぎて」の加藤康次さんから、「自然循環から暮らしを学ぶ」をテーマに、昔と今の暮らしの変化などを説明していただきながら、杣ノ洞地区や三重県名張市での耕作放棄地を生かした活動、雑草の活用など、耕作放棄地を地域資源としてビジネス的に活用する事例なども含めて紹介していただきました。



## 各グループの話し合いの成果

### ①里山散策路づくり

里山散策路づくりのグループでは、「場所の確保」には、市が地主と調整することや、条例などを作って土地を買いやすくする仕組みを作ることが提案されました。また、「お金の確保」では市内の企業から寄付金を募ったり、有料の自然講座を開催して稼ぐことなどが提案されました。さらに、「人の確保」では大学生を呼び込んだり、企業の社会貢献活動とマッチングさせていくなどのアイデアが提案されました。また、「ノウハウの確保」では、コーディネーターやノウハウを持つ人の掘り起し、大学との連携などが提案されました。



#### 【里山散策路づくりグループのアイデア（抜粋）】

場所 (緑地の担保)	○市が地主と調整する。 ○土地は有償貸与でないと難しい。 ○条例を作り、土地を買いやすくする。
金 (活動資金の調達)	○企業との連携で企業から寄付金を募る。⇒樹名の銘板等に企業名を入れていく。 ○自然講座を開催して稼ぐ（1回500円は高いので、100～200円くらいか）。 ○竹を売る。
人 (市民・企業ボランティア)	○大学生を呼び込み、一緒に活動し、木を切る爽快感を味わってもらおう。（将来の里山マイスターに育成する。） ○企業の社会貢献を募る。 ○企業とジョイントしやすいプログラムを考える。 ○企業もボランティアを義務付けているため、上手くマッチングする。
ノウハウ (管理・運営・経営力)	○各テーマの活動でコーディネーターが必要。 ○ノウハウを持つ人材を掘り起こす。 ○大学との連携を考える。（里山に関心のある教授で、仕事でなく趣味で関われる人。学生も一緒に関わってもらえるようにする。）



## ②里山暮らしを伝える・体験の場づくり

里山暮らしを伝える・体験の場づくりのグループでは、「場所の確保」には地元の人と活動する人の想いを同じにしていったり最初の話の持って行き方が大事などの意見が出されました。また、「お金の確保」では野菜や竹炭を売ったり、体験プログラムで収入を得たり、スポンサーに資金提供してもらうことなどが提案されました。さらに、「人の確保」では地元の人を巻き込む方法などが提案されました。また、「ノウハウの確保」では、市役所と連携しながら人と体制を構築していくことなどが提案されました。



### 【里山暮らしを伝える・体験の場づくりグループのアイデア（抜粋）】

<b>場所</b> (緑地の担保)	【信頼関係が大切】 ○地元の人々の想いと活動する人の想いをイコールにする。 ○理解を得るには話の持って行き方が最初は大事。 ○気持ちよく貸せるようにする。 ○誰にもものを言えば良いかをはっきりさせる。
<b>金</b> (活動資金の調達)	○食に対する熱い想いをお金にする。 ○竹炭を作って売る。 ○スポンサーに資金提供をしていただく（地元貢献。大義がない） ○体験型プログラムで収入を得る。 ○米や野菜を作って販売する。
<b>人</b> (市民・企業ボランティア)	【土地を貸すと気になるので、地元の者、地主は必ず来る】 ○耕作をやめた方は貸すと気になる。人間の心理（地元の人々の想い） ○農業経験者で「みんなでやろう」と言ったらやってくれる方は地元の知り合いで5人は確保できそう。
<b>ノウハウ</b> (管理・運営・経営力)	○言いだしっぺは市役所で、市役所が関わりながらリーダーの音頭とりをする。 ○まずは人と体制をシルバー人材なども活用しながら。 ○年間を通じたフィールドワークを行い、自然で生き抜く力を育む。

## ③里山プレーパークづくり

里山プレーパークづくりのグループでは、「場所の確保」には基本は市役所が地主と交渉することなどの意見が出されました。また、「お金の確保」ではふるさと納税の活用、利用者から料金をもらうこと、企業に営業することなどが提案されました。さらに、「人の確保」では活動してくれる市民を募集しつつ、どのように大学や高校と連携していくかなどのアイデアが提案されました。また、「ノウハウの確保」では、将来的には法人化を目指し、親が見守りやプレーリーダーの運営に関わってもらうようにしていくことなどが提案されました。



### 【里山プレーパークづくりグループのアイデア（抜粋）】

<b>場所</b> (緑地の担保)	○基本は市役所が地主と交渉する。
<b>金</b> (活動資金の調達)	○ふるさと納税の活用。 ○利用料の負担は必要。

<b>人</b> (市民・企業ボランティア)	○不動産屋と提携し、営業に使ってもらう。 ○欲しい人材の姿や能力を具体的に示して募集する。 ○単なる人材確保ではなく、能力、技術を提供してもらう。 ○長久手に住んでいる大学生と地域をつなぐ（学生だけだと短期になる） ○大学生のためのボランティア単位を作る。 ○企画段階から大学生に参加してもらう。 ○高校のボランティア部などの部活動や大学サークルとつながる。 ○レポートや卒論のネタにするため、先生とタイアップする。
<b>ノウハウ</b> (管理・運営・経営力)	○将来的には法人化すべき。 ○適材適所の人材確保（管理、経営、教える、見守る）。 ○市が活動を積極的に広報する。（やりがいのある活動へ） ○親が見守りやプレーリーダーの運営に関わる。

## ④里山風景づくり

里山風景づくりのグループでは、「場所の確保」には荒れた状態を地権者に知ってもらい、理解のある人から広げていくことなどのアイデアが出されました。また、「お金の確保」では収穫できるものを販売したり、里山オーナー制度などを実施して稼ぐことなどが提案されました。さらに、「人の確保」では企業のCSR活動や大学との連携、農楽校の卒業生などの活躍できる場など、人が集まる仕掛けを作るためのアイデアが提案されました。また、「ノウハウの確保」では、NPO団体を設立し、全体コーディネーターを確保しつつ、退職した市職員も採用していくことなどが提案されました。



### 【里山風景づくりグループのアイデア（抜粋）】

<b>場所</b> (緑地の担保)	○場所の確保は市が主体。（地権者のメリット⇒税優遇） ○荒れた状態を地権者に知ってもらう。 ○理解のある人の土地から広げていく。 ○モデルとなるような活動で地元の方々の理解を深める。 ○将来的にはNPOがフィールドも準備する。その前段階で「〇〇の会」を作る。
<b>金</b> (活動資金の調達)	○里山は本来お金を作る場所（お小遣い程度）。 ○収穫したものをあぐりん村に出荷する。 ○里山オーナー制度、特産物の生産、鳥、虫、花の撮影会を行う。 ○市の助成金は2年程度。団体が稼ぐ仕組みが必要。
<b>人</b> (市民・企業ボランティア)	○企業のCSR活動 ○県大や愛知医大との連携 ○皆が集まる仕掛けを作る ○農楽校の卒業生が活躍できる場
<b>ノウハウ</b> (管理・運営・経営力)	○NPO団体の設立 ○市職員の退職者 ○核となる人は市の職員では×。全体のコーディネーターが必要。

## 次回のご案内

◆1月24日（木曜日）午後7時から平成こども塾丸太の家にて、第5回ワークショップを開催します。最終回となるため、これまでの話し合ったことを振り返りながら、今後の活動、施設の管理・運営などについて話し合いたいと思います。

【お問い合わせ先】  
長久手市みどりの推進課  
電話：0561-56-0552





## 里山基本計画の策定に向けた

# 里山活動を考えるワークショップ ニュース



第7号

寒い日が続く、インフルエンザも大流行しておりますが、いかがお過ごしでしょうか？

9月からスタートした「里山活動を考えるワークショップ」ですが、今回、最終回を迎えました。

1月24日（木曜日）に第5回ワークショップを開催しました。

今回は、これまでワークショップの経過やこれまでの皆さんからのご意見を踏まえてまとめた『里山基本計画』の概要を報告させていただきながら、次年度に何から取り組んでいくのか、「はじめの一歩」の活動を考えていただきました。

## 第5回ワークショップ「次年度に向けて、はじめの一歩の活動を企画しよう！」

■日時：平成31年1月24日（木曜日）午後7時から9時

■場所：平成こども塾 丸太の家

■参加者：25名

■プログラム：



### (1)開会

- ・今回のプログラムの説明

### (2)前回の振り返り

- ・前回のワークショップで各グループから提案された場所、資金調達、人材確保、組織・ノウハウのアイデアについて説明しました。

### (3)みどりの推進会議の報告

- ・12月3日に開催されたみどりの推進会議において委員から発言された内容について説明しました。

### (4)これまでのワークショップのまとめ

- ・9月から開催されたワークショップや現地見学会、里山講演会の経過報告と、里山保全の理念、基本方針（コンセプト）、4つの活動プロジェクト、ゾーニングイメージ、活動拠点施設のイメージ、里山保全の仕組みなど、里山基本計画の概要案について説明しました。

### (5)はじめの一歩の活動検討(グループワーク)

- ・「里山散策路づくり」、「里山の暮らしを伝える・体験の場づくり」、「里山プレーパークづくり」、「里山風景づくり」4つの活動プロジェクトごとのグループに分かれ、今後実施する「はじめの一歩」の活動アイデアを考えました。

### (6)発表

- ・グループごとに話し合いの内容を発表していただきました。

### (7)全体討議

- ・今後の活動に向けた体制づくりとして、リーダーが集まった会議等をしていくことを伝え、そのメンバーになりたい方を募りました。

### (8)まとめ

- ・閉会の挨拶として長久手市建設部角谷部長からお礼の言葉がありました。

## これまでのワークショップのまとめ

これまで第4回までのワークショップや現地見学会、里山講演会などを振り返りながら、里山基本計画の概要案について事務局より説明しました。

長久手の里山は『多様な価値』を持つ、『市民全体の財産』と位置づけ、すべての市民が里山の価値を共有しながら、里山を守り、活かしていくことをコンセプトに、「散策路づくりの活動」、「里山暮らしの伝承・体験の活動」、「里山プレーパークづくりの活動」、「里山風景の管理・保全の活動」を進めていくことを紹介しました。

また、里山保全活動をマネジメントする「(仮称)ながくて里山センター」を構築していくことや、「里山保全活動を行うゾーニング」や「里山保全活動拠点施設」のイメージ、さらには里山の保全や活動を担保するための条例制定などの提案を盛り込んだ里山基本計画（案）を紹介しました。



## 各グループの「はじめの一歩の活動企画」話し合いの成果

### ①里山散策路づくり

里山散策路づくりのグループでは、ながくて里山クラブのメンバーを中心に、旧山口村道を復元し瀬戸市内までつなげる散策路づくりに取り組みつつ、はじめの一歩としては、「みんなで歩こう！」と、市民参加の散策会を実施していくことが提案されました。



### ②里山暮らしを伝える・体験の場づくり

里山暮らしを伝える・体験の場づくりのグループでは、里山保全の理念をしっかり持って、30年間持続的に活動できるようにするため、第1ステージでは多くの人を集めるイベント、第2ステージは里山保全活動に参加するような教育、第3ステージは里山の資源でお金を稼ぎながら里山保全管理を行う、自立したNPO等の組織化などを進めていくことが話し合われました。



その中で、はじめの一歩としては、美しい里山づくりに向け、地元の人も含め、市民が一緒になって3月に「草刈り活動」をしていくことや、「楽しい散策会」などのイベントを行って、多くの人を集め、里山に関心を持ってもらう活動が提案されました。



### ③里山プレーパークづくり

里山プレーパークづくりのグループでは、プレーパークをつくる目的を明確にするために、はじめの一歩として、「プレーパークを実践している人の話を聞く」ことから実施することになりました。また、「子どもの声、ニーズを把握」しながら、「プレーパークとしてできそうなことを実施」し、「子どもや保護者も体験できるようにする」こと、そして体験してもらいながら「プレーパークの内容を深めていく」ことを繰り返し続けていくことが提案されました。



また、各小学校にプレーパーク委員会を作っていくこと、里山に興味・関心を高めてもらえるように色々な人を集めて体験してもらうことや、スタッフとして働いてもらえるように、若い人、女性、高齢者を巻き込む人材発掘の戦略を考えていくことが提案されました。

### ④里山風景づくり

里山風景づくりのグループでは、田んぼ、畑、湿地、雑木林などを歩くことができる「観察路づくり」をすることが提案されました。この観察路づくりでは、サクラバハノキや竹、湿地に生える木などを伐採し、貴重な生き物が生息できる環境を整えること、原っぱにして利用できる場にしていくことが提案されました。



また、はじめの一歩としては、「自然観察会」を開催し、親子がカメラを持って参加して、昆虫、植物などの写真を撮って、これを1年間続けて里山風景のデータとして取りまとめていけると良いと提案されました。

### 全体討議～今後に向けて～

各グループで提案された「はじめの一歩の企画」を実際の行動に移していくため、各グループの発起人・世話人が集まった会議を3～4月に開催していくこととなり、そのメンバーを募ったところ、各グループから1名ずつの計4名の方に関わっていただけることになりました。

また、今後は里山保全活動をマネジメントする「(仮称)ながくて里山センター」の具体化に向けて、全体をマネジメントできるマネージャー・コーディネーターの候補も探していくことにもなりました。



### 最後に

今回で里山活動を考えるワークショップは終了しますが、これからが始まりで、これから実際の行動に移して頑張っていこうと、全員で記念撮影をして終了しました。



#### <ワークショップ後のアンケートの主な意見>

- 生きものが生息しやすい環境をつくるために、協力できることはやりたいと思います。市にもがんばってもらって、活動の場を確保してもらいたい。
- 『はじめの一歩』に期待します。協働しましょう。
- 里山を将来にわたって残せるよう、できることを少しずつでも参加していきたいです。
- 次のステップが本当に大事だと思います。来年度に向けて実際の活動で表現していきたい。
- 今後も里山保全活動に関わっていきたいと思うので、また企画してください。
- 里山をつくるにはそこにどんな生き物がいるかを知ること。そのためにはデータを集めること。田んぼには水を入れる、池をつくる、竹林、雑木林は間伐する。これからもよろしくお願いします。
- 里地里山は文字通り生活に密着した場所であり、その生活習慣を体験し学べるフィールドとして作り上げていくことが重要であると感じています。
- 東山の道案内をしますので、是非お越しく下さい。楽しい年になる気がしています。
- 里山の再生是非とも実現したいですネ。散策路づくりが楽しみです。
- 次につながる話し合いになり、これからさらに里山活動が進んでいくという期待できるワークショップでした。ありがとうございました。
- 活動には人材の確保が重要。大人の考えだけでなく、子どもの考えも知る必要があるのではないか。
- 人が大切！という意見に強く同意します。プレーパークの実施者をどう見つけていくか、その参加者をどう継続していくか、ヒントをいただいたので、より深く考えていきたい。

#### 【お問い合わせ先】

長久手市みどりの推進課 電話：0561-56-0552